

国内委員会(NC)年次報告書への事務局長からのお礼

皆さま

年の瀬を迎えるにあたり、国内委員会(NC)とその会員の皆様が我々のジェンダー平等および女性のエンパワーメント向上の活動を長きにわたって支援してくださっていることに心から感謝申し上げます。

2015年は我々にとって注目すべき年でした。北京宣言及び行動綱領採択20周年にあたり、9月には国連総会が持続可能な開発のための2030アジェンダを採択しました。持続可能な開発(SDG)には17のゴールが設定されており、その5番目に独立した項目としてジェンダー平等があげられています。またジェンダー平等は他のすべてのゴールを支える位置づけになっており、今や開発アジェンダの中心にジェンダー平等が据えられたのです。

これはUN Womenが9月27日に共催した「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに関するグローバルリーダーズ会議：行動へのコミットメント」でさらに確実になりました。この会議で世界中のリーダーが2030年までに女性への差別を根絶すると自ら約束しました。89カ国に上る政府が自国に速やかな変革を起こすべく具体的かつ測定可能な行動計画を発表しました。これは国家元首及び政府の長が一堂に会し、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに向けた公約をはっきり表明した歴史的な出来事です。

2015年はまた国連安全保障理事会が女性・平和・安全保障に関する決議1325を採択した15周年にあたります。10月13日の安保理の公開討論で私は「女性・平和・安全保障・人道支援促進グローバルメカニズム」を立ち上げました。ことに昨今の暴力を伴う過激主義、移民、難民の問題が女性・女兒に新しい課題を突きつけており、このイニシアティブが一層重要になっています。

今年、国連は8000万人の女性・男性・子



ブムズイレ・ムランボ=ヌカカ UN Women 事務局長

どもに対する人道支援と保護を訴えています。この活動を支えていくには警察、軍隊、国連平和維持活動にもっと女性が参加することが必要です。UN Womenの活動を経済的に支援してくださっている国内委員会にあらためて心から感謝の意を表したいと思います。そのおかげで我々は女性の経済的エンパワーメント、女性に対する暴力根絶、大きな被害を及ぼしたバヌアツ、ネパールの自然災害に取り組むコミュニティーへの支援ができるようになったのです。

私はNCがジェンダー平等、女性のエンパワーメントをそれぞれの国で、また国際的に推し進めようとしていらっしゃる努力に心からお礼を申し上げたいと思います。UN Women は世界14カ国にあるNCとのパートナーシップをさらに強化していきたいと考えています。一緒にプラネット50-50を2030年までに達成しようではありませんか。カウントダウンはもう始まっています。

ブムズイレ・ムランボ=ヌカカ 国連事務次長、UN Women 事務局長

(理事 本田敏江 訳)

UN Women日本事務所開設と国連ウィメン日本協会 —— 話し合いと誠実な役割分担を求めて ——

理事長 有馬真喜子

2015年8月30日、国連機関としてのUN Women日本事務所の開所式が、日本事務所の置かれている東京都文京区のシビックセンターで行われました。

ムランボ=ヌクカUN Women事務局長、有村治子・内閣府特命担当大臣（男女共同参画）女性活躍担当大臣、中山泰秀・外務副大臣、成澤廣修・文京区長らに加え、当日のサプライズで、安倍内閣総理大臣も出席してスピーチを行い、国連旗の授与、テープカットなど、本格的な日本事務所の開所でした。国連ウィメン日本協会からも、有馬がご挨拶を申しあげました。日本事務所は、これで本格的な活動を始めたこととなります。所長は外務省から出向の福嶋香代子さんです。

日本事務所は、アジア地域唯一のUN Womenのリエゾン・オフィスで、UN Womenの活動と役割についての広報やパートナーシップ構築活動などを行います。

さて、日本事務所の開設で、国内委員会である私たち日本協会との関係はどうなるのでしょうか？率直に言えば、混同されるのではないかと、NGOである国内委員会もう不要になるのではないかと、などの不安も寄せられています。

しかし、ユニセフ、UNHCR、WFPなど、駐日事務所と国内委員会がある国連機関は、日本にもたくさんあります。事務局や理事会法人チームが調査したところでは、どの機関も、良い関係、両者があることによってより強固になる機関の在り方を求めて、手さぐりしながら共存の在り方をつくりあげています。たやすいことではありませんが、基本は、十分な話し合いと誠実な役割分担です。そのことによって、1プラス1が2ではなく、3にも4にもなっている先達の例もあります。私たちも、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを促進するために、その姿を目指しましょう。

日本事務所との話し合いは、すでに2回行いました。主として役割分担のあり方についてです。日本事務所のHPの開設も間もなくと聞いています。WEPsについて共同して推進していくことも決まりました。国連ウィメン日本協会の重点の置き方も少しずつ変わってくると考えられます。情報はすべて公開します。それぞれの現場で長年努力し、ボランティアで活動を続けて来られ、国連ウィメン日本協会をつくり支えて来られたみなさまのご意見、ご提案を歓迎します。



UN Women日本事務所開所式でのテープカット
(左から福嶋所長、成澤文京区長、ヌクカ事務局長、有村大臣、中山副大臣)

国内委員会連絡会(オスロ、2015年8月24-26日)

理事 本田敏江

オスロの中央駅を降りた時、目の前に広がった王宮まで続く花にあふれた道がとても印象的でした。会議には13カ国が参加し、例年通り本部からの最新情報の発表で始まりました。

本部のニュース

本部はプログラムの再編に取り組んでいて、戦略に沿って10-12の旗艦プログラムにまとめる作業を進めています。プログラムを大きくすることで報告書作成などに割く時間・労力を節約し、効率化を図るのが目的です。

国内委員会(NC)の発表

次に各国からの活動報告がありました。日本の発表としては①ネパール地震募金、②月例募金の開始、③日本政府の拠出金の増加などについて話しました。①の募金額はオーストラリアに次いで多額で、本部からも感謝されました。②は「日本もやっと始めたのね」と各NCがとても喜んでくれました。③の拠出金は13年比で10倍、14年比で倍にあたる飛躍的な増加。日本政府のおかげで鼻が高かったです。各国の発表の中で各NCが最も力を入れていたのが月例募金とHeForSheキャンペーンでしたのでそれについて以下に述べさせていただきます。

月例募金

発表を聞くと、これが各国の収益の柱になっていることがよく分かります。例えばアイスランドの月例募金者は約5,000人もいて、収益全体の92%を占めているそうです。フィンランドの月例募金者は約1,200人で、総収入の60%を担っています。ドイツは月例募金者を増やすためにUN Women Friendshipキャンペーンを実施しています。

He For Sheキャンペーン

各国ともこのキャンペーンに力を入れている様子が発表から伺われました。オーストラリアでは大統領がこれに署名し、メッセージを送ってくれたそうです。スウェーデンでも首相がこのキャンペーンの大使を務めてくれています。

2日目はユニセフのコンサルタントの経験があるファンドレイジングの専門家によるレクチャーがありました。

本部の発表と討議

最後の日は本部が戦略計画、政府間調整プ



25日のオレンジデーにちなみオレンジをまとう参加者



ノルウェー皇太子

ロセスなどについて発表し、各NCがどのように本部を支えていけるかを討議しました。本部とNC、及びNC間の協力をどのように改善するかも話し合い、定期的にテレコンフェレンスをする、本部が調整役を引き受けてニューズレターを発行するなどの案も出されました。

各NCの印象

色々なNCのメンバーと話してみると、それぞれの事情が全然違うのがよく分かります。オーストラリアなどはメンバーも資金も豊富なようで、女性デーにはかなり大規模なイベントを各地で開催しています。北欧各国のNCも活発です。フィンランドは政府からの助成金を€10万削減されたと嘆いていましたが、これが40%弱にあたってはいるようなのでむしろうらやましい限りです。と思えば誕生してまだ日の浅いフランスなどは個人の寄付でやっと事務局員を一人雇えたと言っていました。ジェンダー平等大臣主催のレセプションにはハンサムな皇太子が出席され、「ダークですてき！」と若いNCメンバーからどよめきが起きました。フィヨルドを巡るボートトリップなどにも参加でき、大いに楽しめた会合でした。

応援メッセージ

手をつないで女性の地位向上を

前厚生労働事務次官

村木厚子



村木厚子氏

わが国で、今、一番大きな課題は少子高齢化への対応だと言われています。このことはかねてから言われていたことですが、「自治体が消滅する」ほどの危機だという最近の警鐘は相当に効き目があったように思います。私は、日本がこの問題を解決するために必要なことは、女性と子供を本気で大切にすることだと思っています。

日本の中で見ていると、日本の女性政策は前進しつつあり、女性の地位も年々よくなっているように思われます。しかし、国際社会の中での日本の状況を見ると評価はズいぶん違ってきます。世界経済フォーラムが発表するジェンダー・ギャップ指数で、日本のランキングは2015年では145カ国中101位です。2013年まで年々ランクを下げ105位まで落ち、その後、わずかに上昇し始めたところですが。あるとき、日本の女性の地位は向上しているのにランキングが下がるのを見て、事務局に問い合わせをしました。「日本はよくなっているのに、なぜ、ランクが下がるのですか」と。返ってきた答えは、「日本はよくなっている。しかし、ほかの国はもっと速いスピードでよくなっている。」

というものでした。日本では女性の健康水準や教育水準は高いのですが、政治や経済への参画は進んでいません。

2014年のG20雇用労働大臣会合では、雇用を伴う成長だけが持続可能な成長であり、「包摂的な成長(INCLUSIVE GROWTH)」こそが重要だという議論が行われました。そして、女性の労働参加に関して各国が目指すべき数値目標が定められました。多くの国がさらにこの問題への取り組みを強化しようとしています。

日本は他の国に学び女性の政治や経済への参加を加速することができます。そして、日本がすでに達成している女性の高い健康水準や教育水準を世界中で実現するために、他国に協力をすることができます。国連ウィメン日本協会が、日本が、世界とともに、スピードを上げて前進することに多大な貢献をされることを心から期待します。

WAWシャインウィークスサイドイベント「世界の少女に教育を！高校生たちが訴える」

国連ウィメン日本協会では、2015年9月22日(火)、東京ウィメンズプラザ視聴覚室で「世界の少女に教育を！高校生たちが訴える」を開催し、渋谷教育学園渋谷高校の女子高校生のお二人に2015年度高校模擬国連「UN Women」会議への参加報告をしていただきました。報告をしてくださった高校生の感想をご紹介します。

* 私たちは昨年5月にNYで開催された高校模擬国連国際大会に出場し、シリア大使として「Girls Education and Gender Equity」という議題に向きあいました。現在シリアは、女子教育はおろか、長引く紛争により学校は破壊され、多くの子どもたちが避難生活を余儀なくされています。この絶望的なシリアの教育状況にどんな希望を見出せるのか。私たちが立てた政策は、「ムスリムの女の子に特化した教育プログラムを、イスラム圏の国家が協力して行う」というものでした。これは簡単に達成されるものではありません。だが、どうしたらこの政策が成立するか、議論を重ねました。今回その内容を発表できる機会を頂き、発信することの重要性を実感しました。このような機会を頂けたことに心から感謝の意を述べたいと思います。(古川友理)

* 私たちにとっては毎日学校に行くことは当たり前のものであったが、今この瞬間も同年代の子

が「女子だから」という理由でつらい思いをしていると思うと、他人事としては向き合えないことを感じました。模擬国連を通して、次世代としてこの現状を変えたい想いと責任感が私の中で生まれ、将来は一步でも前進している世界を創ることを胸に誓っています。

イベントでは、専門家の先生や国連ウィメン日本協会の皆さんから貴重なお話を聞くことができ、女性という立場がおかれている現状について考えさせられました。日本のまだまだ女性の社会進出面でのサポートが足りていない状況に対して、また女性のエンパワーメントに向かって実際に行動されている姿を見て、私もいつかは一緒に、と思わせていただきました。

最後に、発表する機会を下くださった国連ウィメン日本協会の方々、そしてイベントに来ていただき報告を聞いてくださった皆さんへの感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。

(園部莉菜子)



報告をする渋谷教育学園渋谷高校のお二人

会員企業の紹介 株式会社リコー

株式会社リコー コーポレート統括本部
人事統括センター 人事部 ダイバーシティ推進グループ
渡邊真紀子

リコーグループは、「Driving Sustainability for Our Future.」持続可能な社会を、ビジネスの力で、の考えの下、社会から愛され、存続を望まれる企業を目指し、様々な活動を展開しています。グローバルに事業を展開する企業として、各国の法令順守や社会要請に応えるのはもちろんのこと、それを上回る国際的規範を積極的に導入し、人権尊重への取り組みを強化しています。

リコーの人権尊重の原点は、創業の精神“三愛精神”の“人を愛し”にあり、この精神を創業以来、大切にし、リコーグループの各企業は、関係するすべての人々の人権を尊重しています。

性別や年齢に関わらず誰もが活躍する社会である重要性の声が高まっている中、依然として多くの国や地域では、女性というだけで、様々な権利が制限されたり不当な扱いを受けるなど差別的な対応があり、とても残念なことだと思っています。

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントは単に女性だけの問題ではなく、人類の問題と捉えて活動されている国連ウィメン日本協会の活動に共感し、また、活動の場は日本に留まらずアジア各国まで及んでおり、世界的なジェンダー平等と女性エンパワーメントの活動として様々な成果を出し続けていることに敬意を表します。

リコーでは、インドの現地企業と協働で、女性による女性のための日用品を扱う「ウーマンズショップ」を農村部に作り、現地の女性起業家を育成・支援し農村部の女性の収入向上を通じた女性の自立とエンパワーメントへの貢献を目指す活動なども行っています。すべての女性が、差別・貧困・暴力のない生活を送れるような日が来ることを期待し、これからも微力ながら国連ウィメン日本協会の活動を応援していきます。



国連ウィメン日本協会の活動

シンポジウム「北京女性会議—あの時、今、そしてこれから」報告

8月21日(金)午後、国立女性教育会館で同主催、「北京+20 NGOフォーラム実行委員会」の企画・協力による上記シンポジウムが開催された。同実行委員会は2014年夏、国連ウィメン日本協会をはじめNGO14団体で結成され、有馬理事長が委員長を務めた。シンポジウムではコーディネーターの有馬理事長が、1995年の第4回北京世界女性会議の盛り上がり状況や行動綱領について、今につながる問題を提起し、ついで、4人のパネリスト、林陽子(国連女子差別撤廃委員会委員長)さん、坂東真理子(昭和女子大学理事長)さん、船橋邦子(北京JAC—世界女性会議ロビイングネットワーク代表)さん、谷口真由美(大阪国際大学准教授)さんが、それぞれの専門の立場から、20年の変遷と新たな課題を熱く語った。会場からも活発な発言が相次いだ。最後に、これからの20年、次の世代へバトンタッチしつつ、多様になってきた新たな指標に向かって共に行動していこうと締めくくられ、会場は万雷の拍手に沸いた。

働く女性応援シンポジウム 参加者募集のお知らせ

国連ウィメン日本協会では、2016年2月21日(日)13:30~16:00、東京ウィメンズプラザ・ホールにおいて、働く女性応援シンポジウム「私も大切、仕事も大切、の時代を生きる—心のケア、教育、仕事の現場から—」を開催します。

2016年4月の「女性活躍推進法」の施行を前に、「私」も「仕事」も大切な時代に生きる女性たちの今とこれからの考えるとともに、女性たちの活躍の場としての活力ある企業のあり方を探る機会とします。

第1部は、3人の講師をお迎えしてのミニ講演会です。香山リカ氏(精神科医、立教大学教授)による『『女の壁』と乗り越え方』、谷口真由美氏(全日本おばちゃん党代表代行、大阪国際大学准教授)による『『私』でいこう!』、岩田喜美枝氏(元資生堂副社長、国連ウィメン日本協会副理事長)による「女性の活躍のために企業が取り組むべきこと」、それぞれのお立場から語っていただきます。第2部は、会場参加型のパネルディスカッションで、パネリストはミニ講演会の3氏、コーディネーターは有馬理事長が務めます。

皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、

<http://www.unwomen-nc.jp/4065>

をご覧ください。

協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 北九州

国連ウィメン北九州では、7月4日に毎年恒例のチャリティバザーを開催しました。当事務局のある北九州市立男女共同参画センター・ムーブの周年記念行事“ムーブフェスタ”の期間中でもあり、会員の皆さんが国連ウィメンのTシャツを着て売り場に立ち、息つく暇もないほど大盛況となりました。

また11月21日にはミュージカル「青い地球は誰のもの～Our Blue Planet」(北九州公演実行委員会主催)を国連クラシックライブ協会などと共催しました。持続可能な地球のために世界中の人たちが手をつなごう!というメッセージが込められていました。会場のソレイユホールは満員で、舞台を見つめる人の真剣な眼差しが印象的でした。(事務局 浅野俊一)



国連ウィメン日本協会 大阪

2015年11月14日、大阪市立男女共同参画センター中央館(クレオ大阪中央)のフェスタにて、パネル展示を行いました。クレオ大阪中央フェスタは、毎年多くの方が参加していますが、今年も4,500人の参加があり、多くの方に国連ウィメンのことや、国連ウィメン日本協会大阪の活動について知っていただくことがで



きました。

今年度はチャリティイベントを開催することができませんでしたので、2016年度は、会員のみなさまと一緒に、国連ウィメンの活動に効果的な協力ができるよう、工夫をこらしたキャンペーン活動を展開してまいりたいと思います。(事務局 邊見倫子)

国連ウィメン日本協会 堺

国連ウィメン日本協会堺では、今年で第3回を迎える国際女子相撲選抜堺大会を応援しています。日本の国技である相撲をオリンピック競技にするために、女子相撲を普及させよう!と相撲発祥の地「堺」で国際大会を開催。今年台湾、モンゴル、香港、タイを含む18チームが国内外から参加し、浜公園体育館にて白熱した試合を展開。国連ウィメン日本協会堺からは、中量級の優勝杯を贈呈しました。



国連ウィメン日本協会 多摩

6月のクラシックコンサート、11月にはDVの講演会と篠笛コンサート、会長のモンゴル訪問と福島原発被害者の仮設住宅訪問と、会員の中にもいろいろな活動の場を持っている方がいるので、(寄付集めをするのが主な活動とは思いつつも)良い研修もさせていただいている今日この頃です。特にDVはどのようにして起きるのか、被害者が、気がつくまで時間がかかるが、気がついた時どこに相談し、どのような行動をとるか、また、周りのどんなサポートが有効であったかという内容を、実際に被害にあった方から伺うことができ、また公的機関では何が不足かなど、私達に多くの気づきを与えてくれた講演会でした。まだその後の12月23日のクリスマスコンサートまで気の抜けない毎日です。(文責 小川裕未)

国連ウィメン日本協会 よこはま

2015年度後半も、地域連携に加え、男性や次世代を担う若者との連携を目指し、5～6月、明治学院大学の大学祭と「1 day for Others」の社会貢献プログラムに参加、7月、横浜青年会議所主催のサマーコンファレンスに初参加。9月～11月には、市内数か所の地域イベントにも勢力的に参加し、地元の小～大学生、一般男性や女性たちと、バザーを通じて交流を深めました。9月、セミナーでは、ガールスカウト日本連盟のトレーナーによる「みんなで作る暴力のない世界」を講義とワークショップ形式で学習。11月26日、18回目となるよこはまチャリティコンサートは、バリトン歌手村田孝高が歌う、「世界の名曲と美しい日本の歌曲」と題して、「ベルサイユのばら」の作者である池田理代子さんがゲスト出演され、声量豊かに朗々と歌う村田さんと池田さんの美しい歌声のハーモニーが、満席の会場に響きわたり、聴衆を魅了しました。(事業部 牧野迪代)



国連ウィメン日本協会 東京

好評の連続講座、今年は「美術とジェンダー」のタイトルで、西山千恵子氏を講師に迎え7月(偉大な女性の芸術家はいなかったのか)、9月(街中の公共彫刻)、11月(フェミニズムアートと諸論争)と3回の開催をしました。日頃、街中などジェンダーの視点から注意深く視ることもなく過ごしていたことを反省させられたシリーズでした。

12月14日には、初めての会場(北とぴあ)でクリスマスコンサートを開催。

新進気鋭の若きピアニストは、繊細な中にも力強いタッチでホールいっぱいに奏でる響きに、満席の聴衆が時を忘れて聞き入っている姿に感動しました。また飛び入りでご友人とともに

に連弾をしてくださったことも印象的でした。(副会長 鈴木賀子)

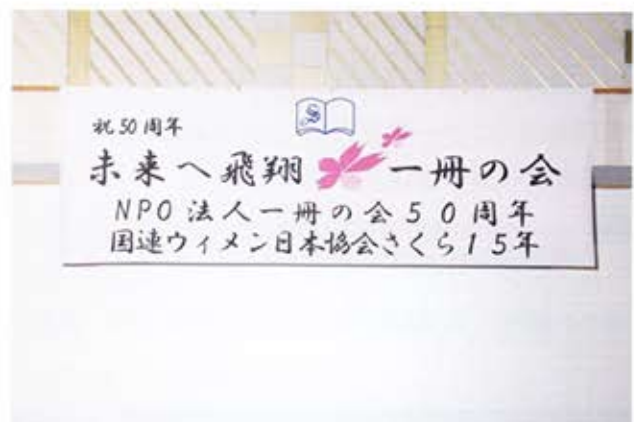


国連ウィメン日本協会 さくら

10月25日、国連ウィメン日本協会さくら15周年を記念し、母体である一冊の会の50周年と共に世界32カ国からのメッセージや各国大使御出席の上、「感謝の集い」を目黒雅叙園で開催いたしました。

幸せなことに岩田喜美枝国連ウィメン日本協会副理事長に御出席を頂き、お祝いのお言葉として「素晴らしい点として持続している事、先輩の想いを継いで若手がしっかり育てている事」などを頂戴いたしました。終了後の反省会では、今後も地道な実践を積み重ねていく事を誓いあいました。

また、学習会では女性の活躍推進法2020年までに指導的地位に占める女性の割合を30%にする目標に対して、自らがそれに当てはまる人材になれるよう、勉強会を重ね学びあっています。(国連ウィメン日本協会さくら 広報部)



事務局からの報告

■クレジット決済、マンスリー寄付が可能になりました。(個人の方のご寄付)

個人の方のご寄付について、インターネットを通じて、クレジットカードでの決済ができるようになりました。クレジット決済では、任意の金額を随時寄付、および毎月定額を継続して寄付(マンスリー寄付)の両方ができます。

マンスリー寄付は、一回手続きをしていただければ、毎月定額を継続して寄付していただくことができます。世界の女性たちの支援のために、ぜひマンスリー寄付へのご協力をご検討ください。

国連ウィメン日本協会ホームページのトップページ「寄付する」からのアクセスをお願いします。

■新団体会員の紹介

国連ウィメン日本協会に、2015年に加入いただいた新団体会員をご紹介します。正会員団体として、(一社)大学婦人協会(賛助会員団体から正会員団体に変更)、賛助会員団体として、NPO法人トルコ文化交流会、国際ソントラ姫路ソントラクラブに新たにご入会をいただきました。引き続き会員の増強に力を入れていきたいと思っております。特に賛助会費は、寄付控除と同じ特典がありますので、国連ウィメン日本協会を通じて女性支援をお考えの企業の皆様、ご連絡をお待ちしております。

■2016年総会・協力協定団体ネットワーク会議開催のお知らせ

日時 2016年2月27日(土) 11:00~16:00

会場 婦人会館 多目的ホール

総会 11:00~12:30

主な議題

2015年度活動報告、活動計算書(案)

2016年度活動計画、活動予算書(案)

2016~2017年度役員改選(案)

ネットワーク会議 13:30~16:00

主な内容

協力協定団体からの活動報告

■寄付者一覧(前回掲載以降2015.12.30現在)

ブックオフコーポレーション(株) 永井多恵子
稲田和永 中村信子 大西珠枝 石橋三洋 本田敏江
谷聖子 西沢誠太郎 大塚享子 男女共同参画推進センター上里町女性会議 佐伯律子 酒井真喜

子 ビューティショップK 国連ウィメン日本協会
よこはま 株式会社ソシア (株)テスコム 鷺見八重子
全国友の会 全日本空輸(株) 山本紀子
富士ゼロックス端数倶楽部 富士ゼロックス(株)
古用晋一朗 花王(株)

■ブックオフ宅本便寄付(前回掲載以降2015.12.30現在)

高橋克子 深津清一 牛嶋亭子 岩谷春香 早光照子
水越香重子 李桂玲 松井一恵 宮地敏子 佐藤恵
前田明宏 国連ウィメン日本協会よこはま 水口海 東金久美子

■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

■正会員団体18団体(2015.12.30現在)

<団体>(公財)アジア女性交流・研究フォーラム
NPO法人一冊の会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会
群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会
全国友の会 国連ウィメン日本協会堺 国連ウィメン日本協会さくら
国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会東京
国連ウィメン日本協会よこはま (公財)横浜市男女共同参画推進協会
国際ソントラ26地区 (一社)大学女性協会

<企業>イオン1%クラブ (株)高島屋 日本たばこ産業(株)

■正会員個人40名(前回掲載以降2015.12.30現在)

■賛助団体15団体(2015.12.30現在)

<団体>(公財)京都市男女共同参画推進協会 久留米市男女平等推進センター
(一社)国際女性教育振興会茨城県支部 越谷ミズの会 (公財)せんだい男女共同参画財団
にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 浜松市男女共同参画推進協会
(公財)佐賀県女性と生涯学習財団 NPO法人トルコ文化交流会
国際ソントラ姫路ソントラクラブ <企業>(株)グッドバンカー
(株)電通 (株)リコー (株)フジテレビジョン

■賛助個人144名(前回掲載以降2015.12.30現在)

村田杏子 織田由紀子 鷺見八重子 古賀好子 吉田昭代 鹿野京子

■ネパール大地震支援募金寄付者は、臨時号(2015.9月発行)に掲載

<認定> NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL. FAX. 045-869-6787

・Email unwomenihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

